



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本 Y M C A 同盟)

Y M C A ユース・カンファレンス報告

Y M C A ユース・カンファレンスが、2012 年 7 月 17 日～22 日、シンガポールで開催されました。エジプトを含む 15 か国・地域から 164 人の Y M C A の若いリーダーたちが集いました。このカンファレンスはシンガポール Y M C A とアジア・太平洋 Y M C A 同盟 (APAY) の共催で、シンガポール国立大学にて開催されました。参加者は大学の寮に宿泊しました。

この会議は、シンガポール Uni-Y の学生たちのリーダーシップとマネジメントによって手際よく運営され、テーマである「STEP UP: Encourage, Educate, Engage」が達成されました。参加者にとっては、基調講演が印象的なものとなりました。その他、ビジネス、教育、家庭、宗教、メディア、政府、芸術とアートという社会の 7 本の柱に関する分科会ワークショップも行われました。このうち参加者たちは、興味に応じて 4 つの異なるワークショップを受講しました。

他に、Youth Got Talent という興味深い企画もあり、ユースたちが歌や作詞作曲、ダンス、劇などで自分たちの才能を如何なく発揮する機会となりました。11 組の中から 3 組が優秀賞を獲得しました。Amazing Race では、カンファレンス中に得た知識を使いながら、シンガポールのいろいろな見所を散策することで、ユース自らの力を引き出そうとしました。このカンファレンスの目的は、ユースのリーダーシップ・スキルの向上と、自分たちの経験を共有しお互いに鼓舞しあうための場を提供することでした。

参加者たちにとって忘れられない経験となったのは、シンガポール Y M C A の総裁 (Patron-in-Chief) であるシンガポール大統領のトニー・タン・ケン・ヤム氏と謁見する機会を得たことです。大統領は 2 時間あまりにわたって、ユースたちひとりひとりと会話をしてくださいました。

1 週間、積極的に参加して下さった各国の若い参加者たちへのお祝いの言葉とともに、このすばらしいユース・カンファレンスをホストして下さったシンガポール Y M C A に感謝申し上げます。



日本の Y M C A からは、藤池竜一氏 (北海道 Y M C A 専門学校生)、藤原駿氏 (茨城 Y M C A ユース・ボランティア) が参加しました。

Y M C A ユース・カンファレンス実行委員長より リム・アンジェリーナ

シンガポールで開催した Y M C A ユース・カンファレンスに、15 か国から 160 名あまりが参加して下さったことは、とてもうれしいことです。

私たち実行委員会とともに、同じ思いを持つユースが一堂に会し、Educate, Encourage, Engage というテーマについて考えをめぐらす



機会を与えてくださったシンガポールYMCAとAPAYに感謝いたします。

私がこのような大規模のカンファレンスの委員長になるということ、今まで夢にもみていませんでした。成功させることができたのは、私の努力ではなく、神様のお恵みとシンガポールYMCAのお支えのおかげです。最初は、私たちのプログラムでユースたちが衝撃を受けてくれるか心配でした。しかし、さまざまな国から来たユースたちがお互いに交流している様子を見て、私の心配は吹き飛びました。これは、YMCA同士のさらなる協力が可能という証拠であり、YMCA同士が協力し合って私たちが神様の手の中で人々に仕えることで、ともにさらに力を得ることができるのです。

総主事デスクより・・・

ユース・カンファレンスに参加して

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平



アジア太平洋地域のユース・カンファレンスがシンガポールで開催され、15カ国から160余名の若者たちを迎えました。そこで感じたことなどを紹介します。今回の企画は、シンガポールの学生YMCAメンバー達が行ったもので、その企画力と実行力には驚かされました。まさにエンパワーされた若者のリーダーシップを強く感じました。こういう企画を若者たちに任せ、成功させたことで、彼らはさらにエンパワーされているのだと感じます。

毎朝、近くの教会で礼拝が行われましたが、音楽とメッセージの礼拝で、若者のバンドが音楽を担当し、若い牧師がメッセージを準備し、その内容も今回のテーマ「励まし、育て、実行する」にふさわしいものでした。

シンガポールYMCAは、その運動のねらいをはっきりと示しています。若者の育成をYMCAの最優先課題に掲げ、その働きを3つの部門で担当していました。一つはボ

ランティア活動推進室、二つ目は若者の海外研修推進室、そして3つ目は、若者による起業促進室、すなわち、Social Businessを若者たちに起業させようというものでした。この3つの部門は、どれも若者たちのイニシアティブを尊重する姿勢で、若者たちが考え、実行をすることを助けるもので、YMCAはそういう場を提供し、取り組み易くする手助けをしていると言う感じです。

今回のユース・カンファレンスを終えて感じたことは、

- 1.若者を育てるという方針がYMCAにある場合、専門のスタッフを配置し、大人が中心になってファンドレイジングをして若者のやりたいことを支援するという仕組みをつくるのが望ましい。
- 2.ユースを育てる現場は、まさにローカルYMCAであり、若者たちの活動拠点となるのが大切。各YMCAに若者たちの委員会を作り、彼らの発想と意見で、多くの若者を巻き込むような活動を生み出すことを是非多くのYMCAで実現してもらいたい。
- 3.アジア太平洋同盟では、今回ユース代表者 (Youth Reps) を各国から2名推薦してもらい、全体で45名を選びました。世界同盟では、同様に Change Agents という呼び方をして、世界から200名の若者代表を育て、2014年の世界YMCA同盟総会を迎える準備を始めました。まさに彼らは世界を代表するチェンジ・エージェントとして、各国、各YMCAで、若者をエンパワーする活動を生みだしてもらいたいと願っています。

礼拝メッセージ STEP UP

アジア・太平洋YMCA同盟総主事 山田公平

シンガポールで行われたユース・カンファレンス中の礼拝は、YMCAのスタッフやボランティアにはふさわしい内容であったと思い、短く要点をまとめました。

一日目: 「キリスト者として生きていこうとしているか」
by Rev. Edmond Fong

あなたに影響を与えるものは何ですか？ 子どもの頃は両親。思春期になると友達、仲間の影響がずっと強くなります。大人になった今、誰があなたに影響を与えていますか？

“Our heart is restless till we find the rest.” 「安心して頼れるものが見つかるまで人の心はさまよい続けるのです。」

二日目：「キリスト的に生きる？ それはどんな生き方？」 By Rev. Fong

どういふ行動がキリスト的な生き方と言えるのでしょうか。マタイの第5章3-12節には、「心の貧しいもの」「Poor in Spirit」は、神がどう判断するかを常に問う人たちのこと。「悲しむ人」「People who mourn」とは、自分達の罪、社会問題を生み続ける人間社会に気づき、その現実に悲しむ人。「柔和な人」「The meek」は、他者が望んでいることを理解し、耳を貸す人。「義に飢えかわく人」「Righteousness」は、人との関係において心の奥深いところで交わろうとする人。「あわれみ深い人」「The merciful」は、人に哀れみと心からの恵みを与えるような人。さらに「心の清い人」、「平和を作り出す人」などと続きます。キリスト的な生き方は、キリストがいかに考え、行動したかを考えることから始まるのです。

三日目：「自分ができることは何かを知る」by Rev. Fong

わたしたちの行動は、自分の本質そのものから出るので。キリストも同様です。キリスト者として、地の塩、世の光となって生きることが出来ますか？キリストの時代、塩は、食物を保存するために用いられました。そのように地の塩とは、この世のよい習慣など生きるうえで必要なものを保存する役割を果たすことです。わたしたちの周りを見て下さい。人を人として維持させてきた制度や習慣、すなわち結婚、家庭、地域社会というものの本来の機能が弱まりつつあります。これらは保存するべきではないでしょうか。世の光というのは、暗闇のなかで輝く人、社会に正義をもたらす人を指しています。塩や光のような存在になるには、キリスト的な生き方、行動を考え、それに近づこうと

することです。そのためには、この世界で世の光、地の塩に近いという生き方をしている人と知り合いになり、そういう人たちと関係を深めていくことが大切です。

四日目：「社会に貢献するために」 by Rev. Raymond Sim

社会に貢献するような生き方を考える上で、第1列王記17章7-16節を読んでみてください。1) Opportunity: 神は未亡人を選ばれた、2) Openness: その未亡人は神の言葉をそのまま受け容れた、3) Obedience: 未亡人は、疑いもせず神の言葉に従った、4) Overflow: その結果、未亡人は満ちあふれんばかりの恵みを与えられた。わたし達も、神から機会を与えられたとき、そのまま受け容れ、その意思に従いなさい。そうすれば、すばらしい神からの恵みを受けることを信じて。

映画からのメッセージ

私たちの意識変革がまさに世界を変える

Bruce van Voorhis

「라이어·라이어」や「パッチ・アダムス」などコメディ映画の監督として知られるトム・シャドヤック (Tom Shadyac) は、生命を脅かすような病気に直面して、変わったドキュメンタリー映画「I Am」を撮ることを決めました。そして、その映画では、「世界では何が間違っているのか」、「私たちはそれにどのように対処できるのか」という2つの根本的な疑問に答えようとしてきました。彼はその疑問の答えを探るために、さまざまな作家、科学者、宗教家や学者たちにインタビューを行いました。

カリフォルニアに暮らす彼にとって、アメリカというのはあまりにも「普通」であるため、インタビューを通して、これまで気づくことのなかったアメリカ社会の根底にある特徴に気づきました。第一に、競争を優先するということが、アメリカ生活のいろいろな側面で浸透していて、人々は他人を犠牲にしてまで他人と区別する必要にかられているということです。富は幸福であるという内在した信念に基づいた生活様式では、消費を促す誘惑がそこら中にあふれており、物質主義・実利主義が満足へと通じているかのようです。映画によると、アメリカ社会の根底を流れるこれら



の特徴のすべてが、人々をお互いに遠ざけ、孤立させ、孤独に直面し、共同体 (community) という概念を失わせるところまで至らしめたとのこと。このアメリカでの生活についての描写は、アジアや世界中の他の地域の人々にも当てはまります。なぜなら、このようなライフスタイルや態度、価値観は、もしかしたらアメリカが世界の他の国々に輸出したもののうち、最も重大なものかもしれないからです。

映画から得た他の学びは、人間は自然から切り離されているということ、もうひとつ付け加えるとするならば、他の生命体よりもいっそう優れているということという無意識の信念を持っているということです。

人間の本質とは何であるかを確かめるため、映画では適者生存というチャールズ・ダーウィンの考え方に焦点をあて、多くの時間をかけて議論しています。映画では、ダーウィンの考え方から今日何が失われたかを問うたとき、人間の本質の最も優れた本能である思いやり (sympathy) であると述べています。映画は最後に、協力 (cooperation) することは人間の本質の特性のうち、競争と同じくらい優れたものであり、それゆえ、人間であるためにはつまり平等主義的で民主的であり、隣人を大切に、お互いを尊敬し、共同体のなかで暮らすのだ、と締めくくられています。映画の中でデズモンド・ツツ (Desmond Tutu) が言うように「私たちは連帯するがゆえに、存在する (We are, because we belong)」。

この映画は、エネルギーの広くて深い畑 (field) を通してすべての生命がどのようにつながりあっているのかについて、多くの解釈や実験を通じた科学的な観点から伝えています。映画が主張するように、生命の分断なんて幻なのです。

このような生命に関する理解を、映画の最初の疑問「世界では何が間違っているのか」の答えとし、映画はその次の「それに対処するにはどうしたらよいか」について答えようとしています。

シャドヤックがインタビューした多くの人々は「私たちの意識を変える必要がある」という同じ結論に至っています。もし人々が自身の言動を、何かをした見返りとしてではなく、他人の長所から引き出すことができるようになったら、このような意識によって人々のお互いの関係は変化するでしょう。

変化を求める歴史的な社会運動について、学者のワード・ジン (Howard Zinn) はあるドキュメンタリーで、多くの人々による長年にわたる毎日の小さな行動が、アメリカの公民権運動や南アフリカのapartheid撤廃などのような、社会構造を変革するような力強い運動を生み出してきた、と述べています。ツツはまた、この考察に「関心を持

っているからこそ変化は起こる」と付け加えています。

変革はまた、権力が強力な人々の手に常にあるわけではないからこそ、起こるのです。映画でマーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、アフリカ系アメリカ人の同胞に向かって以下のように述べました。「黒人を抑圧する人々は傷いた人間であり、だからこそ、彼らの抑圧者を傷つけた魂から解放する力を持っており、その力が抑圧者を再び完全な人間となす愛の道へと続くのだ」

映画から得られる他の重要な見識は、ドラマによるものです。最も重要な瞑想について尋ねられたとき彼は、行動に続く批評的な考えであると答えました。彼は、「あなたの周りの世界を知りなさい。何が陰謀であるかを知り、よりよい世界をつくるためには、自分の才能をどのように使うことができるか考えなさい」と説きます。ツツは言います。「神は言われる。あなた以外には誰もいない」。

シャドヤックは最後にひとつの疑問を提起します。人々が将来、世界で何が正しいのか尋ねられたとき、単純に「私が存在すること」と答えられるようになるのを望む、と彼は答えます。

各国YMCA 新人事

ニュージーランドYMCA総主事リック・オドム氏退職

ニュージーランドYMCA総主事 (CEO) リック・オドム氏が、任期満了にともない6月30日付で退職されました。YMCAの総主事として9年間在職されました。



彼は自身がYMCAに仕え、この素晴らしい運動の一部としてかかわることを特権として与えられたと感じています。在任中、多くの友人、仲間たちから支えられたことに対して感謝の意を述べられました。APAYは、オドム氏の際立ったリーダーシップや支援に感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

APAY グリーン・アンバサダー

APAY 主任主事 ダンカン・チョードリー



ポスト・モダン時代において、自然・環境保護が私たちにとって最も大きな課題となっています。工業化の夜明けとともに開発の名のもとで地球を荒らしてきましたが、20世紀以降、天然資源

の枯渇は、記録をはるかに凌駕するほどのものです。二酸化炭素の排出は、新たな段階へと達しました。地球温暖化は、人間社会に悪影響を及ぼす気候変動へとつながりました。差し迫った危険の脅威から地球を救うべく、この状況を転換させるためには、皆で力をあわせて努力することが必要となるのです。

APAY では、人々に自然保護について関心を寄せてもらえるような提案をしてきました。APAY の主軸となるプログラムのひとつが、グリーン・アンバサダーです。このプログラムでは、二酸化炭素排出を減らすために行動の変化をもたらす、環境公平性(Eco-justice)について、人々や Y M C A から提案することを要請しています。APAY は 4 か年のプロセスを始め、アジア・太平洋地域の多くの Y M C A からのグリーン・アンバサダーを招聘し、育成し、連帯することになっています。グリーン・アンバサダーたちが所属の Y M C A でグリーン・プログラムを行う際にリーダーとなり、各 Y M C A の二酸化炭素排出を減らし、Y M C A を排出炭素ゼロの組織にするよう求めています。

初めてのグリーン・アンバサダー会議は、5 月 21 日～25 日にタイ・チェンマイで開催されました。大部分がユースであり、熱心な 20 人が研修に参加しました。カリキュラムの一貫で、気候変動、温室効果ガス、地球温暖化、気候変動の影響や、環境問題の社会的・経済的・文化的・政治的な側面について学びを得ました。また、フィールドワークでは、二酸化炭素を減らすための工夫をしている場所に出かけ、さまざまな省エネ器具や、太陽光やバイオガスといった再生可能エネルギー資源を用いている様子を目の当たりにしました。それぞれが所属する Y M C A で二酸化炭素排出を減らす努力を試みることになっています。この研修の後、APAY では 2013 年 5 月に第 2 回グリーン・アンバサダー研修を行う予定です。

この研修の目的は、アジア・太平洋地域の Y M C A が、環境や、環境保護に対してより敏感になり、二酸化炭素排出を減らし、気候変動に対応可能になることです。

現在、各 Y M C A のグリーン・アンバサダーは、環境保護活動に携わっています。このことは、たとえ取るに足らないにしても、環境に対してよい影響を与えるものです。

Y M C A では二酸化炭素排出をさらに減らし、炭素ゼロの組織になるよう、取り組みましょう。



APAY ユース委員紹介



ユース委員会委員長
アルヴィン・カン

シンガポールでのユース・カンファレンスの後、肉体的にはとてもくたくたに疲れましたが、精神的にはとても充実していました。ユースをチェンジ・エージェントとしてエンパワーするイベントの皮切りとなった、このすばらしいカンファレンスに参加できてとてもうれしく思いました。私は、若いリーダーたちの情熱と友情が長く続き、私たちの共通のアイデアが Y M C A の中で生まれることを期待しています。APAY のユース委員会はすべての人の場です。ユース委員会は私にとって、よいトレーニングの場となっています。



ユース委員 Betsy Merlyn Williams

文化遺産が豊富で「多様性の中での団結(Unity in Diversity)」がモットーの、多言語・多宗教の国インドより、ナマステ！ インドの Y M C A から前向きな考え方を学ぶことを教えてもらい、勇気付けられてきました。私はよ

きリーダーになることを望んでおり、Y M C A は才能を発揮するのに最適な場所だと感じています。チームとなってかわり、健全なグループ・ダイナミクスを維持していくことができます。チーム活動に焦点を当て、チームを助け、達成することを学び、問題解決を容易にすることができます。リーダーシップとは、誰かを率いるだけでなく、ハーモニーを作り出せるようにみんなとともに努力し、努力することです。ユース委員会は、各個人、また組織としてすぐれた重要性を持つ、リーダーシップの質を引き出させてくれます。何年にもわたり、Y M C A は社会におけるさまざまな問題を理解させてくれ、他の人たちに Y M C A の一員に加わるよう動機付けするというチャレンジングな機会を与えてくれました。Y M C A は人々に仕える場です。

APAY ユース委員会委員

Youth Participation and Leadership Development (YPLD) Committee Members



Alvin Kan (YPLD
Chair)
Hong Kong



Philip Damion
Arumagam
(YPLD
Vice-chair)
Sri Lanka



Hendrikus
Rahardjo
Indonesia



Ng Yee Khai
Malaysia



Sukhen Joseph
Gomes
Bangladesh



Amber
Grayson
Australia



Betsy Merlyn
Williams
India



Yoriko Hashizaki
Japan



Mark Clester
Rufino
Philippines



Nattaphon
Sakulvanaporn
Thailand



Joana U Hoi
Teng
Hong Kong



Oliver Loke
Singapore

アジア・太平洋地域ユース代表(Youth Reps)

National Youth Representatives from Asia and Pacific Regions



Chan Mei Yan
Victoria
Hong Kong



Sreykov Kun
Cambodia



Neang Channeth
Cambodia



Lee Mei Sin
Fiona
Hong Kong



Marvin Tapiador
Philippines



Hsiao Wen Wen
Taiwan



William Gourav
Sammader
Bangladesh



Ng Kee Ming
Malaysia



Wu Hoi San,
Debbie
Macau



Cheng Hoi Lang
Fay
Macau



Samarpan Acharya
Nepal



Tidarat Penvijit
Thailand



Ekachai Chaiya
Thailand



Misaki Nagaoka
Japan



Kurosawa Shinichiro
Japan



Joshua
Pyae Sone
Oo
Myanmar



Saw Tun
Lu
Myanmar



Philip
Joseph
John
India



Christopher
San Ramon
Philippines



Tuphan
Gurung
Nepal



Udara
Devmee
Perera
Sri Lanka



Victor
Immanuel
Williamson
Nalle
Indonesia



Lee Ji
Yoon
Korea



Geethi
Imasha
Thathsarani
Sri Lanka



Rajah
Daniel
Stephens
India



Gwendolyn
Goon
Singapore



Tan Wei En
Wayne
Singapore



Joel Clark
Australia



Alicia
Crawford
Australia

Asia and Pacific Alliance of YMCAs

Youth Participation

and

Leadership Development

Committee
(2012 - 2015)

 Empowering Youth as Agents of Change



Asia and Pacific Alliance of YMCAs

Australia	Bangladesh	Cambodia	East Timor	Fiji	Hong Kong	India	
Indonesia	Japan	Korea	Macau	Malaysia	Myanmar	Nepal	New Zealand
Pakistan	Philippines	Singapore	Sri Lanka	Taiwan	Thailand	Vietnam	

発行元

アジア・太平洋Y M C A同盟

Asia and Pacific Alliance of YMCAs

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong

tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692

e-mail: office@asiapacificymca.org